



平成 14 年 11 月 20 日
木 武 一 所
出 張
平 鈴 用 3700-3557

57 頁 務 任 号 者 局
行 辨 発 号

ふれあいまつり二題

・9月29日 用賀小中心に
・重賀空呂 峯 亜矢

ラリーに初めて参加。地
図を見て拓本とるのに一苦
勞。小ニの兄は探検隊のつ
もりで、お友達と楽しそう
にクイズに答えていました。
「疲れたしを通報しながら
歩き通した弟は、校庭での
ご褒美水餃ですっかりご機
嫌。曰頃これほど頑張りな
い子供達だ、一生懸命歩き
十一月に出産を控えた私
は、安産のためにと歩く、
疲弊感も心地よく有意義で
楽しい一日でした。

重賀空呂 若荷 弘

親と子が安心して「ふれ
あいラリー」を楽しむこと
が出来た。ゴスの案内、横
振店、音楽、ダンス等々、盛
り上げて下さった方々に感
謝。クイズに頭をひねりなが
ら約30分、2時間余りのコ
ースをのんびりとゴール。早
々とゲームやお菓子に飛びつ
く子供達、私は冷えたビール
を喉に流し込む。程よい疲
れと、歩いた町並、人との
ふれあいが少し心に刺され
た一日。運営に当たられた
皆様に、感謝。



二子のいる街

青野 昌

鈴木好友

山の手の世田谷にも花柳
の世界があつた事を意外と
思われますが、多摩川の川
岸に川魚料理の料亭が並び
、或る屋敷や見番のある二葉
地として、たいへん栄えま
した。

屋形船による船遊びや、
投網漁で鮎や山女魚料理を
供する舟宿や旅館に、カフ
ーや食堂等、三味線の音
が流れ様と柳と藤柳が風景
を川面に写していました。

水光亭、柳屋、玉泉亭な
どの亭子から、日の出歌とか
中歌、月の歌等、いかにも
色気らしい屋号や希望館、
町田軒など時代を物語る名
前で十数軒ならんでいまし
た。

わがまち七十年の足跡

大山道と用賀商店街

用賀駅前 S B S タワー
録田修明

用賀駅前 S B S タワー
が完成し、大山道を中心
として用賀商店街は様相を
一変しました。念願であつ
たショッピングフロムナ
ーでも昨年完成し、歩きよい
道路になりました。

昭和三十年頃、大山道に
面したお店は数十店ほどで
したが、現在は三百店あま
りにもなっています。特に
飲食店、美容院、ブティック
が多くなりました。

まだまだ大きな開発が計
画されていますが、これか
らもう古き良き「大山道」を
中心に、商店街と町の発展
を永く見つめていきたいと
思います。



瀬田昔は別荘地

豊田 昌

佐々木フク子

三万年前の地層から石器
が出土、眼下に多摩川、遙
かに富士山を望む高台は別
荘地でした。

キリンビールの米井郎、
ノリタケの森村邸、海運の
栗林邸跡地も世代交代によ
り、マンションになりました
が、大きな樹木はみんなの
力でなんとか保存されてい
ます。

旧第一銀行のグラウンドは「
セントメリススクール」となり
、行火坂は通学で賑います。
長崎屋敷は「モダンゴルフ」と
なりこの様に回分寺崖線の
様相は大きく変わりました。
古くからの家には井戸があ
り「災害時井戸水提供の家
」と指定されています。

街を交えた国道三三六号

青野 昌 金田義典

この地の歴史に生まれ育
ち、今昔の環境の変化に目
を見はるどころです。以前
我が家の周辺は、畑地、茶
畑、竹林などがあり、それ
はそれは閑静な処で、車さ
え通りませんでした。

昭和三十年頃、国道二四
六号線が完成し、其の為五
川用賀町一丁目「向」が、
この道路に依り、我が家の
土地も含め町がすべて分断
され、今の姿になつてしま
いました。

今はビルや商店が立ち並
び過去の面影は有りません。
そして、この風道が有る限
り、騒音と車の流れは今日
も明日も続くのです。

あれから区制も七十年

鈴木武一

へ先の戦争永くして
赤がみ召集おもひ出す
満鉄線破にはじまつて
歩騎砲工の陸海軍
辛い 苦しい 十五年

その又 犠牲は何百万
ピカドン 一発一終戦で
ビククリ... 平和 世界中
皆創おわり... それ電気
あかりなつかしまぶしいね
いろ色づく配給ぐらし

衛生予防は DDT
疎開見いそげ帰るんだ
学校給食はじまつて
脱脂粉乳、コッペパン
東京裁判 GHQ
判決くやしい主権人
軽犯/沖親/重労働

だから何でも 只ハハハハ
やりくり上手な皆の衆
要領よろしく生きて来た
気が付きあれから七十年
人口増えて八十万

インフレ時代で様が変わり
すべておカネは円建てで
コイン機かしお別れだ
五銭、十銭、50銭
東急地下鉄 用賀駅
30階のビル、タワー
西の東京目じるしだ

大山街道 渡し舟
新二子橋バイパスが
出来て交通はやすがる
見落しました兵庫島
川崎主手の上に建つ
岡本太郎の傑作は
亡き母かの子の追悼か
夕月淡くしら鷺が

黙って一羽とんでった
秋の名残りの夕まぐれ
文化をひろく世田谷区
ーおしまー



郷土紹介

村から町へ



今年、世田谷区が誕生して七十周年、去る十月六日、世田谷区民会館に於て、その記念式典が行われた。私たちの町も七十年の歳月、大きく変貌し今日を迎えている。昭和七年、世田谷区制が施行された時、東京府荏原郡五川村に属していた大字瀬田は、五川瀬田町と五川町と云う二つの町となり、同じく大字用賀は五川用賀町一、二、三丁目と三地域に分かれて新しい町となった。

昭和十年代、耕地整理事業の進捗に伴い、次第に道路も整備され、五川用賀町一丁目の高台には太平洋戦

争開戦時の東條英機首相の私邸が出来た。昭和史の中で用賀が大きくクローズアップした時期である。そして戦後、畑は次々と住宅地化し、続く高度経済成長時代、単社会の到来と共に、五川通り、環状八号線、東名道、首都高速三号線と幹線道路が整備されて私たちの町は文字通り東京の西の玄関となった。

昭和四十年代の新住居表示採用時に町の区域の線引が新たに行われ、五川、瀬田、用賀と云う従来の町名に加えて、五川台、上用賀の町が誕生した。又、二子五川周辺は、今、区内有数の大ショッピングゾーンへと、その歩みを早めている。



(坂田)

川場村の今昔

上越の国境、谷川岳と武尊山の麓に位置する「川場村」は今では世田谷区の一ふるさと村として親しまれています。

自然と人情豊かなこの村に生まれ成長した私にとって、川場村は大切なふるさとです。現在は上越新幹線や、開越高速道などのおかげで、三時間程で行けますが、私の育った昭和十年代は、東京はまるで外国のような距離に感じられたものです。

わが故郷

その頃、村には一軒の「よろずや」のような店があるだけで、生活はほとんど自給自足でした。村の三分の二は山林で、

残りの農地で米、麦、野菜等を作っておりましたが、土地を持たない人達は、山の伐採や炭焼きなどで生活していたようです。当時養蚕が盛んで、村人は「お蚕桑」と呼んで大切に育てていました。まゆが売れる頃には、村祭りが行なわれ、子供達は「お蚕桑」を折って、その日を待っていました。四季おりおりには様々な行事があつて村中一

件となって楽しんでいました。その頃から半世紀を過ぎた今でも、美しい自然と豊かな人情は変わっていません。どうぞ一度川場村へお出掛け下さい。雪の季節を除いて、色とりどりの花々が、と皆さんを歓迎してくれることでしょう。



わが家の

地球温暖化防止対策

時候では晩秋ですが、今年の夏は熱帯夜が続き、眠れない夜が長かったようです。日中の日差しも特に強く感じました。都会のヒートアイランド現象で夜間気温が下がらなくなってきたり、地球の温暖化現象で日本の気候が温帯から亜熱帯、熱帯へと変わりつつあるという記事も新聞で読みました。

私の提案

温暖化による影響は、①大都市の多くが海面下に。②水不足や水害の増加。③生態系の急変や食料不足に。④熱帯性伝染病の流行。等があるそうです。

このことが世界的な問題となり京都議定書が採択されたのはごく最近のこと



矢口

スワット

防火ひとくちメモ

最近、杉並区での連続放火事件など恐ろしい火事の事件が起きています。ゴミは収集日まで出さない、燃えやすい物は家の外に放置しない等、お互いに注意しましょう。



多摩川清掃大作戦

ラブリバー多摩川を愛する会と、国際学生ボランティア協会との共催で、多摩川清掃大作戦が行われます。秋の一日、ゴミ拾いに参加しましょう。

11月23日(土) 午前10時から多摩川兵庫島にて



昭和七年に東京府が市になり、十五区が三十五区になって今年で七十年です。世田谷区は、世田谷町、駒沢町の二町と、松沢村、五川村が合併して誕生しました。

本号は、わが町の七十年を色んな切り口で眺めてみました。どんな色に見えるかは、読み手次第です。自分史と重ねてみて下さい。それぞれの人生や立場から、わが町を見つめ直してみたいかがですか。

これから「百年」に向かつて町はどんなに変わっていくでしょうか……。

(池田)